

対談 宮川健郎 × 中地 文

児童文学とは何か、児童文学研究とは何か

—その楽しみと意義—

宮城教育大学は、児童文学を専門とする専任の教員のいる、全国でも数少ない大学の一つです。附属図書館にも、大学図書館としては多数の児童書が所蔵されています。

今回のスパイラル・セッションでは、実際に児童文学担当の教員として宮城教育大学に勤務している中地文（附属図書館長）と、その前任者である宮川健郎先生の二人の児童文学研究者が、宮城教育大学における児童文学研究／教育の歩みを振り返りながら語ります。

○ 宮川健郎(みやかわ たけお)先生



1983年6月から1998年3月まで14年10か月、宮城教育大学に専任講師、助教授として勤務。現在、武蔵野大学文学部教授。一般財団法人・大阪国際児童文学振興財団理事長。『国語教育と現代児童文学のあいだ』（日本書籍）、『宮沢賢治、めまいの練習帳』（久山社）、『現代児童文学の語るもの』（NHKブックス）、『物語もつと深読み教室』（岩波ジュニア新書）、『ズッコケ三人組の大研究』全3冊（共編著、ポプラ社）など著書編著多数。

○ 中地 文(なかし あや) 本学附属図書館長



1998年10月、宮城教育大学助教授となる。現在、宮城教育大学教授。附属図書館長。著書に『宮澤賢治の深層』（共著、法蔵館）、『賢治童話ビジュアル事典』（監修、岩崎書店）など。

日時 2017年8月9日(水)13時30分～15時

会場 宮城教育大学附属図書館 スパイラル・ラボ

* 一般公開いたします。どなたでも、ご参加ください。

* 参加無料、事前申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。